

2023年3月3日

三洋テクノマリン株式会社
三省水工株式会社
日建工学株式会社
株式会社アルファ水工コンサルタンツ

**NEDO グリーンイノベーション基金事業として採択
「ブルーカーボン推進のための海藻バンク整備技術の開発」で「漁港を利活用した
海藻バンクによるブルーカーボン生態系拡大プロジェクト」を実施**

三洋テクノマリン株式会社（社長：高畠新）、三省水工株式会社・日建工学株式会社（社長：皆川曜児）、株式会社アルファ水工コンサルタンツ（社長：堀江岳人）の4社は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構から公募された「グリーンイノベーション基金事業/食料・農林水産業のCO₂等削減・吸収技術の開発プロジェクト」のうち「ブルーカーボン推進のための海藻バンク整備技術の開発」に対して、コンソーシアム（幹事企業：三省水工株式会社）として「漁港を利活用した海藻バンクによるブルーカーボン生態系拡大プロジェクト」を提案し、採択（https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101602.html）されました。

●背景と目的

2050年には世界人口が1.3倍（2019年比）に増加し、今後、大幅な食料の増産が不可避となる中で、食料生産による環境負荷を引き下げ、農地や森林、海洋が果たすCO₂等の吸収・固定能力を最大限に高めることが、食料の増産及び地球環境保全の両面において喫緊の課題となっています。

農林水産省では、2021年5月に食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため「みどりの食料システム戦略」を策定しています。その中で、食料・農林水産分野における2050年カーボンニュートラルの実現に向け、CO₂吸収源対策を一層強化するため、バイオ炭による農地炭素貯留、高層木造建築物の拡大、海藻類によるCO₂固定化（ブルーカーボン）等の技術に係る研究開発及びその社会実装を加速化すること等の方針を明らかにしています。

本プロジェクトでは、漁港水域内を利用して大量の海藻種苗を生産し、近隣海域へ効率的かつ効果的に移植することで、CO₂吸収源の一つである海藻藻場を回復させるための技術を開発することを目的としています。コンソーシアムでは、各社の強みを活かしながら、①海藻カートリッジ

NEWS RELEASE

の開発、②海藻育成基盤の開発、③海藻バンクシステムの開発、④広域藻場モニタリング手法の開発、およびそれらの社会実装を目指し、プロジェクトを実施していきます。

●採択テーマ名

「漁港を利活用した海藻バンクによるブルーカーボン生態系拡大プロジェクト」

●事業期間

2022年度～2030年度（9年間）

●プロジェクト概要

グリーンイノベーション基金事業／食料・農林水産業のCO₂等削減・吸収技術の開発

漁港を利活用した海藻バンクによるブルーカーボン生態系拡大プロジェクト

事業の目的・概要

ブルーカーボン推進のため、漁港を利活用して大量かつ安定的に海藻を育成し、従来の1/4の5kg程度の海藻移植用カートリッジと栄養塩を溶出し10～18N/mm²の強度を有する海藻育成用基盤ブロックを用いて周辺海域へ効率的に移植することにより、**広域な藻場の造成と回復を実現する海藻供給システム（海藻バンク）を構築。**

実施体制

※太字：幹事企業

三省水工株式会社、日建工学株式会社、株式会社アルファ水工コンサルタンツ、三洋テクノマリン株式会社

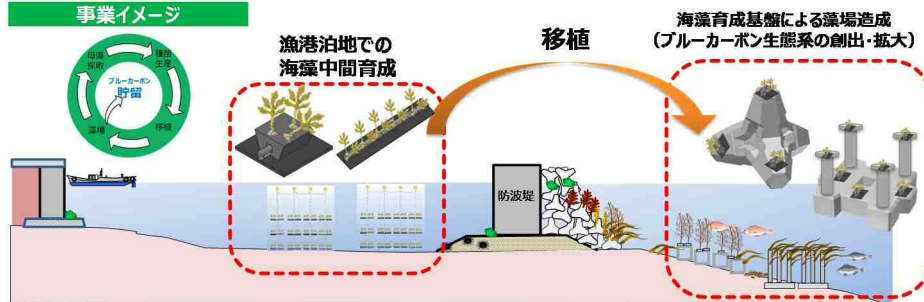
事業規模など

- 事業規模：約14.9億円
- 支援規模*：約13億円
- * インセンティブ額を含む。今後ステージゲートでの事業進捗などに応じて変更の可能性あり。
- 補助率など：9/10（委託）→2/3→1/2（インセンティブ率は10%）

事業期間

2022年度～2030年度（9年間）

事業イメージ



出典：三省水工(株)、日建工学(株)、(株)アルファ水工コンサルタンツ、三洋テクノマリン(株)

以上

●本件に関するお問い合わせ先

三洋テクノマリン株式会社 hp@stm.co.jp